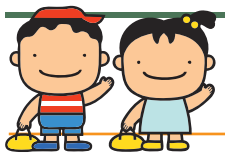

学校訪問

部活動

第一中学校
荒川1－30－1

生徒が部活動を紹介します

ソフトテニス部

▶区大会を終えて

◀試合に勝つぞ！ 女子

私たち一中男女ソフトテニス部は、男子20名、女子24名の合計44名で活動しています。活動日は、金曜日の放課後、水・木曜日の朝練、そして、土・日曜日です。

練習では、ボールを使った基本的なテニスの動きを確認するための打ち合いや、試合を想定した実践形式などをしています。練習をしていて大切なこととしては、「試合」を意識して練習に取り組むということです。目的もなく、ただボールを打って返すことを続けるより、目的をもって、速いボールを打つためにはどのようなフォームにしたらよいか、コートのどこに、どのようなボールを打ったほうが効果的かを意識して、確実に試合で生かせるように頑張っています。

また、コーチや他のメンバーに自分のプレーを見てもらうことによって、弱点を自分で理解しながら練習を続けています。

今年のテニス部の目標としては、区大会で勝ち残り、都大会で自分たちが納得できるテニスをすることです。そのためにも日々努力し、大会で自信をもって荒川一中の名を残せるようにしたいです。

執筆 部長 小川 慶悟

学校自慢

汐入小学校
南千住8－2－3

学校の自慢を児童が紹介します

▲隅田川の土手で活動しています

▲校門前で校長先生があいさつ

汐入小学校は、荒川区で2番目に児童数が多い小学校です。汐入小学校の自慢できることを3つ紹介します。

①あいさつがよくできる

私たち汐入小学校は、「笑顔であいさつ」を心掛けています。校門の前では校長先生が、笑顔であいさつができるように、「ニコちゃんマーク」の紙を持って、あいさつをしてくれます。また、朝だけでなく、いつでも学校中にあいさつが溢れています。

②在来種を守る活動

毎年5年生が、在来種を守る活動を行っています。土手の外来種を刈り、日本らしい自然である在来種を増やしていく活動です。専門家の先生にお話を伺い、自然の大切さを学びました。そして、4年生にこの活動を受け継いでいきます。

③15周年

汐入小学校は、6月10日に15周年を迎え、全校児童が参加して15周年をお祝いする「15周年お祝い集会」が開かれました。汐入小学校の歴史をクイズやスライドで学びました。この集会でさらに汐入小学校の色々なことについて知ることができました。

◀15周年の横断幕

このように、汐入小学校にはたくさんの自慢があります。これからも汐入小学校を多くの人から愛される素敵な学校にしていきたいです。

執筆 6年 清野 小春 蔭下 遥香

七峡小に宇宙飛行士・山崎直子さんがやってきました！

6月29日、第七峡田小学校に宇宙飛行士の山崎直子さんが来校。「宇宙そして夢」と題して、子どもたちに話をしてくれました。

▲貴重な写真とともにお話をする山崎さん

食べ物や服装など宇宙飛行時の生活の様子や宇宙から見た景色、一緒に宇宙飛行をした仲間たちのことなど、自分たちが経験したことがないお話に、子どもたちは驚きの声を上げていました。「このお話を聞いたことがきっかけで、未来の宇宙飛行士が出てきてくれたらうれしい」と、山崎さんはメッセージを贈りました。

▲代表の児童から花束が手渡されました

▼七峡小全校児童が山崎さんのお話に感嘆していました

第10回 柳田邦男絵本大賞

絵本への想いを手紙で届けてください。

対象 区内在住・在勤・在学の方

募集期間 9月29日(金)まで

募集部門 子どもの部(中学生以下)…400～800字程度

※一般の部もあります

応募・問合せ 〒116－0002荒川区荒川2－50－1 ゆいの森あらかわ 柳田邦男絵本大賞事務局☎(3891)4349

※詳細はお問い合わせください

※持参の場合は、各区立図書館へ（休館日を除く）

あらかわ今昔ものがたり
あらかわの歴史と伝説
その110 太田道灌とあらかわ④
道灌さんと山吹の里伝説

日暮里駅前の太田道灌さんの銅像は、鷹狩りをしている道灌さんだね。

ところで、鷹狩りってなんだか知っているかい？ 鷹狩りというのは、飼い慣らした鷹を野山に放し、野鳥や獣を捕る狩りのことで、古くから天皇や貴族が行っていたんだけれど、後に、武士にも広がっていったんだ。武士は、武芸の訓練として鷹狩りを好んで行ったそうだよ。

鷹狩り大好き道灌さん

室町時代に江戸城を築いた太田道灌さんも、鷹狩りが大好きだったんだってさ。ところで、道灌さんは、どこで鷹狩りをしたのかな？

何々、日暮里に銅像があるから、諏訪台や道灌山の辺りじゃないかって？ いやいや、そうではないんだ。

道灌さんが鷹狩りに訪れたのは、お友だちの木戸孝範さんが庵を結んでいた辺り。そうそう三河島だね。この頃の三河島には、大きな入江があって、芦の原っぱが広がっていたというから、たくさんの野鳥や獣がいただろうね。

山吹の里伝説

道灌さんの鷹狩りには、こんなお話が伝わっているんだ。

ある日、道灌さんが鷹狩りをしていたら、急に強い雨が降ってきた。困った道灌さんは、近くの農家に立ち寄り、蓑（藁を編んで作った昔の雨具）を借してほしいと声をかけたんだ。すると、中から娘さんが出てきて、何も言わずに一枝の山吹を差し出した。道灌さんは、これに腹を立て、立ち去ったんだって。後で、家来から「『七重八重花は咲けども山吹の実のひとつだになきぞ悲しき』という和歌をご存じですか。「実の」と「蓑」をかけて、「お貸しできる蓑が無くすみません」というお詫びの意味を込めて山吹を差しだしたのですよ」と教えてもらったんだ。道灌さんは、これを恥じて、和歌の勉強に一層励んだそうだ。

このお話に因んで、道灌さんが訪れた場所を「山吹の里」と言うようになったんだ。

花の木の高畠三左衛門の娘

昔、三河島一帯は、道灌さんの鷹狩りの場所に指定されていて、狩りのための番人もいたんだってさ。その頃、花の木（荒川六丁目）の辺りに、高畠三左衛門という人が住んでいて、その娘さんが道灌さんに、山吹の枝を差し出したんだってさ。だから、花の木辺りを「山吹の里」と呼ぶんだって（『三河島町郷土史』）。

「山吹の里」には、荒川七丁目の泊船軒、豊島区高田、埼玉県入間郡越生町など、各地に候補地があるんだ。

今度、あらかわの歴史にとって大切な道灌さんについてもっと調べてみてね。

▲荒川ふるさと文化館蔵「江戸名所図会」

問合せ 荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

古紙配合率70%再生紙を使用しています。